

平成26年度 自己点検・自己評価  
項目別の自己評価表

学校法人 呉竹学園  
**呉竹鍼灸柔整専門学校**  
— 自己点検・自己評価委員会 —

2015年6月

## 1. 学校の教育目標

本校の教育活動及び学校運営の根幹をなす「教育理念」、「教育目標」及び「育成人材像」は次のとおりである。

### 【教育理念】

人類の保健と伝統医学の発展に寄与し、広く社会の信頼と尊敬を得る医療人を育成することによって、社会貢献を果たすことを教育理念とする。

### 【教育目標】

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師として、十分な知識と技術を身につけ、柔軟な思考力を持った、全人的な医療を施すことができる懐の深い医療人を育成することを目的とする。

### 【育成人材像】

- (1) 医療現場において、患者の心と体を癒すことができる医療人としての人格を持つ人材
- (2) 医療を行うにあたり必要な知識、技術と十分な臨床力を身につけた人材
- (3) 実践教育を行い、医療を通じて社会に貢献できる人材

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### (1) 社会ニーズを踏まえた授業の充実化

平成27年から設置した「特修コース」では、超高齢社会やスポーツ人口の増加など医療を取り巻く環境の変化に対応できる人材を育成するために必要な授業を計画していく。

### (2) 臨床教育の強化を図る

広く社会の信頼と尊敬を得て、社会貢献を果たすことができる医療人の基盤を作るために臨床教育の強化を図る。

#### ① 指導する教員の臨床力の強化を図る。

- ・教員は、附属施術所にて臨床に積極的に携わることにより臨床力を研ぎ、教育現場に還元する。
- ・業団等が主催する勉強会、研修会に積極的に参加し、専門技術、知識の習得に努める。

#### ② 臨床現場の実際の様子を理解させるとともに、医療人として相応しい素養、自覚を身につけさせる。

- ・インターンシップ対象企業を拡充し、学生がより多くの治療院、企業等に参加できるようにする。
- ・臨地実習の一環として、メディカルステーションでのアシスタント業務に参加し、実際の障害に対する対応等を身につけさせる。

### (3) 中途退学者防止に向けた取り組み

#### ① 教員の指導力の強化を図る。

- ・問題を抱える学生や学力低下などに対し、引き続き教育センターでの勉強会(FD活動)を通して、教員個々の指導力向上を目指す。
- ・各科目の授業の進め方はシラバスを基準としているが、実際の教授方法は各教員の力量(個性・専門性)に委ねられている面もあり、それらの妥当性や教育成果をチェックする機能がない。各教員の個性や特性を尊重しながらも、良質な授業、分かりやすい授業を提供できるように、教員による授業評価、授業見学を実施し、教授方法のノウハウの共有化を図る。

#### ② 学生の資格取得への意欲を高める。

- ・キャリア支援室を中心に、キャリアガイダンスの充実を図る。
- ・卒業後の活躍状況を把握し、学生に伝えていく。
- ・入学後早期から臨床教育の現場に触れさせることにより、モチベーションを向上させる。

- ・学修の到達目標を明確にしていく。
- ・1年次の退学者が最も多いことから、初年次教育のあり方を見直す必要が出てきたため、退学要因や学生の学力格差を早期に調べ、必要な教育サポートを検証していく。

③学生の精神面でのサポートを強化していく。

- ・学生の精神的な面では、担任だけでなく複数の教員で対応できるようにする。
- ・試験成績や出席率など保護者と連絡、連携を取りながら対策を講じていく。
- ・教育方針や学校行事などを保護者に案内し、学校教育に対する理解、協力を求める。

**(4)アウトカム基盤型教育への転換及び教育の質保証に向けた取り組み**

これからの社会構造や社会ニーズの変化、医療を取り巻く環境変化に対応するためには、従来までの積み上げ式の教育や資格取得を目標としたアウトプット型教育では十分とは言えないため、資格者の未来を想定した学校教育のアウトカムを明確にし、資格者が社会に出て存分に貢献・活躍できるように教育内容やカリキュラム編成の見直しを行っていく。

**(5)学生募集活動の強化**

学校乱立や少子化(2018年問題)などにより今後さらに入学志願者の獲得が厳しさを増してくることが予想されることから、他校と差別化できる本校の教育の特長、魅力をホームページやパンフレット、SNS等を通して入学志願者やステークホルダーに対して十分に周知するとともに、学生募集支援システムを活用した入試広報の強化を図っていく。

**3. 評価項目の達成及び取組状況**

**(1)教育理念・目標**

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
学校における職業教育の特色は何か	4 ③ 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

①【課題】

学校の理念・目的等は学科横断的に明文化されている一方で、各学科ごとの特性を踏まえた具体的な将来構想や卒業後の人物像についてまでは言及、設定されていない。そのため、取得する資格の違い以外の各学科の特長や差異が十分に表現されていない。また、卒業時の教育目標を達成するための各学年

における目標設定や教育活動の結果や成果を評価・検証する仕組みが整備されていない。

② 【今後の改善方策】

- ・各学科ごとに、学科の特性を踏まえた教育目標、育成人材像を設定、明文化するとともに、保護者や学生、志願者に周知していく。
- ・社会のニーズ、業界のニーズに呼応した資格者を養成するため、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会を通して教育内容を検証し、学科ごとの将来構想に反映していく。

③ 【特記事項】

平成26年3月31日に全学科が職業実践専門課程として認可された。

2) 学校運営

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
目的等に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4 ③ 2 1
教務財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 【課題】

専修学校の質保証や新たな学校種(専門職大学・仮称)の構想など、高等教育機関における制度改革に向けて、第三者評価を意識した組織体制の整備が必要である。

② 【今後の改善方策】

学園総務と連携して、学校組織の内部統制(ガバナンス)を図るための規則・規程の整備、人事考課制度・採用計画のあり方、各学校単位の事業計画・報告、予算執行管理、監査、教職員の法令遵守(コンプライアンス)など、学校運営の体制をひとつひとつ確実に整備していく。

③ 【特記事項】

職業実践専門課程の認定に伴い、教育活動及び財務に関する情報をホームページに開示した。

### 3)教育活動

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関連施設等、業界団体等のニーズを踏まえた教育活動がされているか。	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(企業との連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 ② 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
学生の研究に対する支援体制はあるか	4 ③ 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

#### ① 【課題】

- ・各科毎の具体的な育成人材像やその為に必要な教育目標が明文化されていないため、資格取得や国家試験に合格することが目標になってしまっている。
- ・職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫としてのキャリアガイダンスの実施、インターンシップの導入などの取り組みの成果について、検証、評価する仕組みがない。
- ・授業評価アンケートについて、教員個々の教授方法や教授内容の善し悪しを個別に評価することが目的になってしまい、問題点の共有・改善や教育の質を高めるための組織的な活動につなげられていない。また、過去のアンケートの結果がどのように活かされているか検証が十分でない。
- ・これまで教職員の研修は数多く実施又は参加してきたが、その成果を測るスケールがなく、組織的な検証ができていない点が課題である。

#### ② 【今後の改善方策】

- ・職業実践専門課程の意義を踏まえ、今後、医療人としてのキャリア形成を含めた実践的な職業教育を推進していくにあたり、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会による企業等との連携のもと、社会ニーズ、業界ニーズを取り入れた教育理念を達成するための各学科ごとの卒業後時の教育目標、育成人材像を設定する。同時に、その目標までの到達度を検証、評価する仕組みを構築していく。
- ・学生による授業評価アンケートだけでなく、教員による授業評価、授業見学を実施し、授業の改善を図る

とともに、教授方法のノウハウの共有化を図る。

- ・各教員の専門性を高める研修や指導力向上のための研修、教職員の全体的な資質向上のための研修など、研修目的の明確化、共有化など計画的、組織的な運用をしていく。

### ③ 【特記事項】

関係法令により、インターンシップなどの学外実習が正規授業として認められていないことが、職業実践専門課程としての教育活動の支障となっている。

## 4)学修成果

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

### ① 【課題】

- ・正規授業の中に組み入れにくいという理由から、就職や資格取得後の進路に関する支援の対策が遅れている。独立開業権など資格の特性はあるものの、国家試験に合格させることが大きな教育目標になってしまっており、治療院・業界の動向把握、就職指導等への「出口教育」の対応が不十分である。
- ・学業成績不振による退学、進路変更等への対策を講じているものの、退学率低減に十分な結果を残せていない。
- ・直近の卒業生又は一部の卒業生の活躍状況や評価は把握できているが、卒業後しばらく経過した卒業生と接点を持つことが難しく、アンケート調査の回答率や校友会が主催する講習会や懇親会への出席率など課題は多い。

### ② 【今後の改善方策】

- ・キャリア支援室を機能させ、治療院や業界の動向把握、就職指導などを教育の一環として行う。
- ・退学率の低減については、引き続き、成績不良者の学力向上、キャリアガイダンスの実施などを通してその効果を検証するとともに、学内に設置した教育PTや教育センターによる教員の指導力向上を目指していく。
- ・卒業生の活躍状況等を把握する手段として、アンケートや懇親会だけでなくフェイスブック等のSNSの利用を検討していく。

### ③ 【特記事項】

- ・就職状況の把握が難しい要因として、国家試験に集中するため、卒業後に就職活動を行う者が多いことが関係している。
- ・平成26年度の国家試験合格率は次のとおりである。

■あん摩マッサージ指圧師 100%

■はり師	98.8%
■きゅう師	97.6%
■柔道整復師	95.1%

## 5) 学生支援

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1
国家試験不合格者に対する支援体制はあるか	④ 3 2 1

### ① 【課題】

- ・進路、就職については、求人紹介等をはじめ事務で対応することが多いが、体系的な支援になっているか検証が必要である。
- ・学生相談について、勉強や学費以外の学校生活全般における悩みや相談を受け付ける「学生相談室」のような明確な窓口はなく、またそれらの相談内容に対して専門的に対応できる人材が少ないことが課題である。
- ・同好会(サークル)が少なく、課外活動への積極的支援ができていない。また、学術発表も一部の学生に限られている。

### ② 【今後の改善方策】

- ・資格取得だけでなく、卒業後の進路や就職までを教育活動の一環として支援するためにキャリア支援室の充実を図る。
- ・教育センターを中心に学生対応に関するセミナーを開催し、悩みや問題を抱える学生に対する対応を学ぶ。また、学生が相談しやすくなるよう、なるべく多くの教員で対応できるようにする。
- ・同好会規程に基づき、サークル活動を推奨するようにする。

③ 【特記事項】

- ・学内進学奨学制度や特修コースに対する奨学制度の内容を充実させた。

6)教育環境

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4 ③ 2 1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 【課題】

- ・校舎竣工から13年が経過したことにより、空調設備を始めとする校舎内の各設備に不具合が出始めている。
- ・柔道整復の施術所の運用について策を講じているが、現時点では臨床施設として十分機能していない。

② 【今後の改善方策】

- ・授業等に支障が出ないように、計画的に設備機器の修繕、交換等を進めていく。
- ・柔道整復科施術所の具体的な周知、運用方法について引き続き議論していく。

③ 【特記事項】

防災に対しては、消防計画に基づき適切に対応している。また、自主的に危機管理マニュアルを作成し、全職員と共有するとともに火災を想定した避難訓練、地震発生時の対応等の訓練を定期的を実施している。さらに、地震や火災などの防災に関するセミナーに参加し、災害時の食料や防災関連用品の備蓄を行っている。

7)学生の受入れ募集

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 【課題】

受験生の減少、特に社会人受験生の減少に歯止めがかからず、一部の学科で定員割れを起こしている。



## ② 【今後の改善方策】

志願者が学校を選べる時代になり、教育成果を伝えるだけでは志願者が集まらないことから、教育活動の中身を見直し、将来にわたり広く活躍できる人材を育成するとともに、他校と差別化できる教育の特色や独自性などを正確に且つ分かりやすく提示していく。また、情報発信の手段として、フェイスブック等のSNSを利用する。

## ③ 【特記事項】

学生募集に関しては、関係法令及び倫理規程等に従い定員を遵守し、適正な時期に適正な手続き方法により実施している。また、学納金についても教育施設及び教授する教育内容と照らし合わせて、一般的に妥当性のある学費となっている。

## 8) 財務

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
年度予算、中期計画は有効かつ妥当なものになっているか	④ 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

## ① 【課題】

- ・財務基盤は安定の域にあるが、養成校の乱立や少子高齢による入学者の減少により年々減収となる一方、校舎施設・設備の老朽化に伴う維持管理費等の支出が増大していることから、長期的な立て直し計画が必要である。
- ・定員割れを起こしている学科の奨学制度や広報活動に力を入れているが、受験生の減少になかなか歯止めがかからない。

## ② 【今後の改善方策】

財務基盤を安定化させるために、定員割れを起こしている学科の抜本的な改革・改編を急ぐ。

## ③ 【特記事項】

本校は借入金がなく、経費節減などに努めてきた結果、健全な財務状況を維持している。また、その財務状況については、ホームページ上に公表している。

## 9) 法令等の遵守

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ③ 2 1
自己点検・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 【課題】

- ・個人情報の保護に関し、学内イントラネットを構築し適切なデータ管理に努めているが、不測の事態を想定した対策や、二次的被害への対策は十分とは言えない。
- ・自己点検、自己評価結果における問題点や課題の解決に向けて努力しているが、成果が上がらない項目や時間的に検証が不十分なままになっている項目がある。

② 【今後の改善方策】

- ・コンプライアンス及び個人情報の取扱いに関しては、定期的に勉強会を開催し、教職員全体で共有しながら進めていく。個人情報の取扱いについては、漏洩させないための情報セキュリティの徹底と、漏洩してしまった場合の緊急対応などについて検討していく。
- ・授業や日常業務に支障を来さないよう業務効率を高めながら、優先課題をピックアップし、具体的計画を実行できる体制を構築する。

③ 【特記事項】

- ・自己点検、自己評価結果に対する学校関係者評価を実施している。

10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1
地域との連携・交流をしているか	4 ③ 2 1

① 【課題】

- ・公開講座やボランティア等を毎年実施しているが、学校説明会や入学試験、その他の学校行事等との日程調整や人材、労務等の問題で、積極的な開催が難しくなっている。

② 【今後の改善方策】

- ・地域貢献活動の計画的な運用と教育資源を活用する体制を整える。また、公的な団体、或いは関連業団が主催するボランティアを活用して、積極的に参加、受託していく。

③ 【特記事項】

- ・附属施術所(はり・きゅう・柔道整復)にて一般外来患者を受け入れている。

- ・毎年、学園祭にて「チャリティーマッサージ」「チャリティー鍼灸」を実施し、その収益をチャリティーとして、福祉慈善団体等に寄付している。
- ・ビル環境協議会、町内会に参加し、地域のイベント時には協賛している。また、「横浜F・マリノス」のスポンサーとして、地元ホーム(日産スタジアム)を応援している。

以上